

児童発達支援ガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 4名回答、回答率 100%

保護者様： 15名回答、回答率 75%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・法令上の基準は満たしているものの、多機能型から一体型事業所へと変更となり、児童発達支援と放課後等デイサービスが重複する時間帯は、職員数が限られてしまうことがある。
- ・放課後等デイサービスと隣り合わせの為、時間帯によって隣の部屋の音が気になることがある。壁に吸音材を設置するなど、対応をしている。

○業務改善

- ・教室内ミーティングにて、職員で情報共有をしている。
- ・研修を受講する機会が設けている。

○適切な支援の提供

- ・子どもと保護者のニーズや課題を面談を通して把握・分析し、それを基に子どもと接してアセスメントをとり、個別支援計画を作成している。
- ・子どもの課題に合わせ、療育テーマを決めて立案している。
- ・専門職員に定期的にアドバイスをもらって支援につなげている。
- ・支援後に都度、課題への取り組みの様子を確認し、次回への取り組みへの改善を行っている。
- ・勤務体制の都合上、全体で業務前ミーティングを実施するのが難しい時があるが、合間に情報共有や振り返りなどを行うようにしている。

○関係機関や保護者との連携

- ・保護者からのご要望で、保育園・幼稚園や相談支援員との連携とり、訪問やケース会議を行い、その結果は保護者へ共有している。

○保護者への説明責任等

- ・支援後のフィードバック時や面談時にお話を伺っている。
- ・保護者のご要望で、面談やモニタリングの機会を設けている。

○非常時等の対応

- ・毎月災害・不審者対策を想定した避難訓練を実施し、子どもと職員の動きや理解度を確認している。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・「活動スペースの広さ」や「わかりやすく構造化された環境か」の項目では8割以上の方に「はい」とご回答をいただいた。「勢いのある動きをした際に少し狭いと感じることがある。」とのご意見もあったので、スペースの確保について検討していきたい。また「隣の部屋の声が聞こえるので集中しづらいのではないか。」とのご意見があった。こちらは吸音材の設置などで対応を進めている。

・職員の配置について、「以前より人数が減ってしまったので、少し不安を感じる。」とのご意見をいただいた、事業所の一体化に伴い、人員の変更もあったので、保護者の方にも変更が分かりやすいようにお伝えしていきたい。

○適切な支援の提供

・「子どもの特性に応じた専門的な支援が受けられているか」という問いに対し9割以上の方から「はい」とご回答いただいた。また「専門的な知識を持っているわけではないため判断しかねるが、こういったときはこういう気持ちでやってと思う、声かけの仕方など教えてもらえるのは自分が子どもに対してどう接すればいいのか分かって良かった。」「子どもが飽きないよう工夫をされていると感じる。」「好評だったものは日を空けて少し変えて、再度やったりしていて、子どもとも前にもこれやったけど楽しかったなど話すことができます。」などのご意見をいただいた。

○保護者への説明等

・「子どもの状況」「育成の助言」「子どもと保護者の意思疎通」などの項目では9割以上の方に「はい」とのご回答をいただいた。また「フィードバックでの課題への取り組み様子や個別支援計画の支援の具体的な説明が行われている。」「共感的に支援してもらっている。」との意見をいただいた。

○非常時等の対応

・「非常時マニュアル等の周知」「災害を想定した訓練の実施」「安全計画の周知」について、8割の方が「周知されている」「実施されている」との回答をいただけた。しかし、「わからない」との回答もあり、全ての方に周知できるようにしていく必要がある。

○満足度

・「安心して通所している」「子どもは通所を楽しみにしているか」について、回答者全員から「はい」という回答をいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・保護者からの協力を得て、各関係機関と随時連携を図れるように関係性を築いていく。
- 業務前ミーティングやフィードバックを行い、より子どもに関する情報共有や支援について充実を図っていく。
- ・教室整備や安全管理をより徹底していく。
- ・引き続き、子ども・保護者に満足していただけるような療育・支援を行っていきけるよう、職員それぞれが支援の質をあげていく。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・保護者からの情報や要望により、保育園訪問や各関係機関との連携に努めることができた。
- ・職員間での情報共有や研修を通し、支援の質の向上を目指し、満足度の維持に繋がった。
- ・教室整備について、床の補修や吸音材の設置など行ったが、まだ改善する余地や必要性があるため、継続して対応する必要がある。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・活動を飽きないように工夫したり、また個々のレベルに合わせた療育を行うようにしている。
- ・就学に向けたプログラムを取り入れ、楽しく取り組むことができるようにしている。
- ・個別支援計画の更新面談とは別に、面談やモニタリングの希望を受け、個人面談の機会を設けていることで、保護者との関係性を築き、様々な状況における子どもの様子を把握し、支援につなげている。
- ・保護者の要望に応じて、保育園・幼稚園訪問等を行い連携を図っている。

○改善点

- ・法令上の基準は満たしているが、多機能型から一体型事業所へと変更となり、児童発達支援と放課後等デイサービスが重複する時間帯は、職員体制が厳しくなる時間帯がある。
- ・保護者会を開催することができなかつたため、次年度は保護者会を開催していく。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・児童発達支援と放課後等デイサービスのサービス提供時間や安定した体制が作れるよう対応する。
- ・保護者会を企画実施し、保護者に向けた活動報告や非常時対応の周知を行う。

○1年間で取り組む具体策

- ・児童発達支援と放課後等デイサービスのサービス提供時間の見直しを行う。時間変更後も利用者のニーズや職員体制の安定に繋がる形を模索していく。
- ・4月中に年間の保護者会の開催スケジュールを設定する。保護者の方にも開催日や開催内容について聞き取りを行い、多くの方が参加し必要な情報を提供できるようにする。